

無届け有料老人ホーム

全国1万5000人入居

身寄りない人ら目立つ

入居者に介護や食事などのサービスを提供しているながら自治体に届け出ていなければ「無届け有料老人ホーム」に昨年度、全国で少なぐとも約一万五千人が入居していたことが一日、共同通信の自治体への調査で分かった。無届けホームについては厚生労働省が施設数を発表しているが、人数が明らかになるのは初めて。福井、鳥取、香川三県は一人もいなかった。』関連⑦面

部屋の広さや防火設備など国が定めた基準を満たせない代わりに、安い利用料で低所得や身寄りのない高齢者を受け入れている例が多い。特別養護老人ホーム（特養）のような正規の施設に入れない人の受け皿になっている実態が浮かぶ。

届け出は法律で義務付けられており、無届けだと行政の指導・監督が行き届かず、入居者が劣悪な環境に置かれたり、貧困ビジネスなど不正の温床になつたりする恐れもある。

調査は四月、有料老人ホームの届け出先の都道府県、政令指定都市、中核市百十二自治体に実施。全て

と、入居者数が最も多いのは北海道で八千百四十七人。大阪府千三百一人、千葉県六百二十四人が続いた。北海道は冬季に高齢者が入居するという地域特有の事情もある。

施設数は四月二十二日の厚労省発表（千六百五十カ所）を一部の自治体が訂正し、疑い例を含めて全国で一千六百二十七カ所。厚労省が調査を始めた二〇〇九年度以降で最多となつた。高齢者の増加に加え、厚労省が実態把握の徹底を自治体に求めたことも一因とみられる。

今回の調査では、判明分だけでも定員は計二万一千七百四十一人、入居者は計一万五千二百九人だった。

都道府県別（政令市、中核市の分を含む）に見る